



#### 4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か		市が行うべき	○	他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか	○	急いで取り組む		中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

#### 5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	観光客がコロナ禍以前のレベルに回復していることに加え、来年度には、大阪・関西万博の開催を控えており、今後さらにインバウンドを中心とした観光客の増加が見込まれるため、本市が観光地として選択されるよう、国内外へのプロモーション活動等の誘客施策をより一層強化し、観光消費拡大を目指し、取り組んでいく。
見直し・改善内容	本市ならではのコンテンツ造成を行うとともに、ターゲットを絞った効果的なプロモーションを実施することで、国内外からより多くの誘客を図り、観光消費の拡大につなげていく。